

受講番号 19064 学校名 南海中学校 氏名 西 美智子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年生 生徒数 92名
 科目名 3年生 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 NEW HORIZON ENGLISH COURSE 3

クラスの様子・特徴

1年生次に約1ヶ月間担当し、2年間の育児休暇の後3年生の4月から改めて担当している。明るくて元気な生徒が多いが、英語学習に意欲的な生徒は約半数である。1・2年次の内容理解が不十分で不安を抱えている生徒や学習規律が身につけていない生徒も多い。

問題の確定

「言えるけれど書けない」「単語のつづりや英文の語順が覚えられない、わからない」という悩みを抱えている生徒が多い。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学カデータ
1・2年次の学習内容の理解が不十分で、一般動詞の活用やbe動詞が身につけていない生徒が多い。ピクチャーカードやクイズなど、興味関心をひくような教材での導入やパターンプラクティス、スラスラ表現、アクティビティへの関心・意欲は高い。	4月当初の、英語が「好き」と答えた生徒は各クラスとも約4分の1程度であった。「英語は嫌い・必要ない」と答える生徒も多いが、「おもしろいピクチャーカードを使った授業やスラスラ表現は楽しく分かりやすく、覚えやすい」という意見が多かった。	表現力が低く、定期テストでの表現の項目は、空白が目立つ。解答していてもつづりや文法の間違いが多い。特に動詞の活用が弱く、be動詞と一般動詞の区別や、主語や時制による使い分けができていないものが多い。語順を苦手とする生徒も少なくない。

リサーチ・クエスト

既習・新出の文法事項を使って、自分の言いたいことが「書ける」力を定着させるための指導の工夫をどうすればよいか。

仮説・実践・検証

仮説	実践	検証
仮説1 単語は、導入時に音声とつづりを繰り返しインプットすることによって覚えることができるであろう。	実践1 単語は、導入時にフラッシュカードを工夫して使い、くり返しインプットした。(1単語につき10回以上発声できる工夫)新出単語をリストにし、「ペアで暗記チェック→air writing(音読しながらのつづり練習)→時間を計ってくり返し書く練習→時間を計っていくつ書けるか競争」の活動を行なった。「読み・意味・つづり」は、できるだけ授業時間内に覚える！を実践した。	検証1 フラッシュカードによる単語の意味の確認と発声練習が「書くこと」への効果につながったと感じた生徒は約半数だったが、air writingは約68%の生徒が「とても効果があった」または「効果があった」と答えた。「単語が覚えやすかった」「発音とつづりを同時に覚えられた」という意見も多かった。また、「話すことにも効果がつながったと思う」と答えた生徒が63%~73%いた。
仮説2 新出文型は、興味関心をひく教材とパターンプラクティスによって導入し、ポイント文をいくつかのパターンで暗記することによって、文型を覚えることができるであろう。	実践2 先生の顔やおもしろい絵のピクチャーカード、食べ物や乗り物の模型など、興味関心をひくような教材を使って導入やパターンプラクティスを行なった。基本文のair writingも行なった。「スラスラ表現」として、新出文型を5~6文のパターンでリストにし、「ペアで暗記→チェック」を行なった。新出文型をバラバラにしたものを並べ替えるゲームで、語順の定着を図った。	検証2 「書くこと」への効果があったと感じられた活動は、「おもしろい教材を使ったの練習」68%・「スラスラ表現」76%・「並べ替えゲーム」57%「基本文のair writing」69%であった。特に「スラスラ表現」は定期テストでよい結果につながったこともあり、人気の高い活動になった。また、「ワークシートでの練習問題」に、82%の生徒が「効果があった」と答えた。
仮説3 週に1回ジャーナルを書くという課題を与えることによって、知らない単語や語句を辞書で調べたり、ALTやJTEからのコメントや励ましに、英語で書くことへの意欲が高まり、既習の文法項目をアウトプットする場として活用できるであろう。	実践3 1. 毎回目付と曜日を書く 2. 3文以上書く 3. したこと+感想を書く 4. がんばって続ける 5. 新しく習ったことはどどん使ってみる、などの約束のもとに週に1回日記を書いて提出させた。ALTとJTEで添削・コメント書きを行った。	検証3 英語力の高い生徒は、ALTのコメントが楽しみで、知らない単語や文型を自分で調べるなど意欲的に書けたが、そのほかの生徒は、毎回少し違えて同じ内容を書いてきたり、次第に提出が遅れたりした。アンケート調査では、「効果があった」と感じた生徒は約半数であった。英語力のレベルによって、個々に応じた活用の仕方を変えていく必要性を感じた。

研究の成果

仮説1・2は効果的であった。定期テストにも結果が表れ、生徒の意欲も高まったと思う。仮説3は能力によって効果が分かれた。比較的英語好きの生徒にはALTとの交換日記として生の英語に触れる良い機会になった。また、知らない単語や表現を調べて書いた努力の跡も見られ、意欲を高める良いきっかけになったと思う。反対に1・2年次の内容が不十分な生徒にとっては、形式だけのものになってしまった。調査をすることで、生徒にあった学習方法を考え、実践することができ、生徒との共感的な人間関係づくりの助けにもなった。

今後の授業改善の課題

効果の高かった活動は引き続き行ない、それらを日常的に継続してアウトプットする場面を増やしていきたい。家庭学習の定着も不可欠になってくる。ジャーナルは英語力によって効果の有無がわかれたので、個々の英語力にあった活用の仕方を工夫していきたい。新出文型だけではなく、日常的に既習の文型も取り込みながら演習ができるように授業を組み立てていきたい。今後も生徒の求めるものに気づけるようにしていきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-842-3291